

編集後記

本年度も『ミクスト・ミューズ』をお届けすることができた。今期第8号は論文および博士前期・後期の論文要旨のほかに報告類が7編と最も多く、その内容も研究、授業に関するものから連携事業、特別講座、総合ゼミに至るものまで多岐に渡った。音楽学コースの「女子力」を発揮して細やかかつ迅速に編集作業に当たってくれた博士後期課程の七條めぐみさん、同前期課程の深堀彩香さん、学部の鈴木春香さんと畑陽子さん、本当にお疲れ様でした。そして、本号掲載の記事にもあるように、本紀要の編集で活躍してきた博士後期課程の粕山陽子さんが今期、博士学位を取得したことも喜ばしく思う。最後に本紀要の創刊以来表紙のデザインをお願いしている美術学部の小林英樹先生が本年度をもって本学を退官にされることをここに銘記して感謝の意を表したい。K.M.

第8号が無事刊行に至ったことを、大変喜ばしく思います。今年は編集のまとめ役をやらせていただきましたが、作業全体を進めていく中で至らないことが多々あったことと思います。「編集スケジュール虎の巻」を作成し導いてくださった前編集長の森本先輩、博士号の取得という大事な節目の時にもかかわらず快くサポートしてくださった粕山先輩、どうもありがとうございました。また、試験や研究で大忙しの中、献身的に作業をしてくれた深堀さん、鈴木さん、畑さん、本当にお疲れさまでした。そして、寄稿を快諾してくださり、タイトな編集スケジュールにご協力いただいた著者の方々に、深く深く感謝申し上げます。M.S.

今年は新しい編集長のもと、新たに二人のメンバーを迎えての編集作業となりました。初めてで慣れない事づくしにもかかわらず真摯に作業を進めてくれた心強い新メンバーと、多忙な中、私たちを引っ張ってくださった編集長に感謝感謝です。たくさんの方々のご協力により、今号が無事に刊行できましたことを大変嬉しく思います。A. F.

今年初めて編集作業に携わり、先輩方に何度もヘルプを出し、手取り足取り教えてもらいながらの作業でした。今まで出来上がったものを受け取る側でしたが、今回は制作する側にあつたために、この刊は今までと違い思い入れのあるものになりました。H. S.

今回初めて編集作業に携わらせて頂きました。分からないことも多く戸惑いましたが、七條先輩、深堀先輩にご指導頂きながら、なんとかお手伝いさせて頂きました。途中から私事で作業をお任せすることになってしまいましたが、快くお引き受けくださった編集委員の皆様、どうもありがとうございました。寄稿して下さった執筆者の皆様に心からの感謝と、今号の刊行へのお祝い申し上げます。Y. H.